

のぼりペツ

広報



特集

- ◆ 行政改革の実施計画
まとまる！
- ◆ 秋の叙勲
- ◆ 市民リポート 登別の水
- ◆ きらり
北海道高校定時制・通信制
生徒生活体験発表大会
優秀賞 松本暁子さん

12/1
1995
No.542

行政改革の実施計画まとめまる!!

簡素で効率的な行政システムの 確立をめざして

市では、限られた財源と人員の中で、新たなニーズに適切に対応し、「簡素で効率的な行政システムの確立」を図るため、行政改革に取り組むこととし、昨年12月に市民の代表者による「登別市行政改革推進委員会」を設置して、行政改革の基本方針についてご意見をいただきながら、本年2月に「登別市行政改革基本方針（概要は、4月1日号広報に掲載）」を定めました。

この基本方針に沿って、具体的にどのような行政改革に取り組むか、「行政改革推進委員会」のご意見などをいただきながら、この度、行政改革の実施計画を定めましたので、その内容をお知らせします。

なお、今回の行政改革は平成8年度を初年度としておおむね5年間で実施する予定ですが、項目によって市民の皆さんや関係諸団体などと十分協議しながら進めることとなりますので、ご理解とご協力をお願いします。

事務事業の見直し

①文化・スポーツ振興財団(仮称)の設立

文化・スポーツの普及及び振興のために、広く市民の意見を取り入れ自主的に事業を展開し、その効果を高めるとともに、一体的な施設の管理運営を行うため、「文化・スポーツ振興財団(仮称)」の設立を検討します。

②町内会への助成事業の見直し

近年、町内会の活動は幅広くなり事業運営のための負担が高まっていることから、町内会活動の助長を図るため、町内会と十分協議し、助成について見直しを行うとともに、町内会活動の協力体制の強化に努めます。

③圧着貼り合わせ葉書の導入

税などの口座振替に伴う領収書



④いきいき推進奨励事業(仮称)の創設

各種の地域おこしイベント事業は、それぞれの事業の歴史的経過から市からの補助の比率などにバラツキがあるので、これらの補助事業を一つにまとめ、市民が自主的・主体的に取り組む個性的なまちづくりを支援する制度を検討します。

⑤自主文化事業の見直し

市では、自主文化事業として昭和61年度から市民に優れた芸術・文化の鑑賞や創作発表の機会の提供を実施してきたところですが、本事業のより効果的な事業展開を図るため、設立を予定しております。「文化・スポーツ振興財団(仮称)」に移します。

⑥小中学校の見直し

温泉小中学校・札内小中学校は、市内でも特に小規模校であり、生徒数は今後も減少する見込みです。



設数・収容定員、さらには保育事業の充実を図る中で、移転改築も考えながら統廃合を検討します。

⑨ 鉾山簡易郵便局 運営事業の見直し

鉾山簡易郵便局運営事業は、鉾山郵便局の廃止後、昭和34年3月から簡易郵便局として地域住民の利便を図って来ましたが、地域住民の減少に伴いその利用度が低下しているため、他の施設利用のための交通手段などを考え、施設の存続について検討します。

⑩ 鉾山バス運行事業の 見直し

昭和55年以降地域住民の足を守るために市営バスを運行してきましたが、利用が少ない反面、市費持ち出しが増加傾向にあることから、代替措置などを地域の皆さんと協議しながら事業運営について検討します。

⑪ 各種使用料・手数料 の見直し

各種の使用料金などについては、定期的に見直しを継続するものとは市の均衡や実情により見直しを行うものを項目ごとに精査し、適正な受益者負担に努めます。

⑫ 行政手続制度の 適正な運用

国の行政手続法の施行に伴い、市独自の許認可などの処分についても行政手続法に沿った条例整備を検討します。これに合わせて許認可に対する申請書などの簡素化についても検討します。

⑬ 民間委託の推進

業務の効率、コスト、市民サービスの維持、民間の受け入れ体制などを総合的に判断しながら各種事業の民間委託を計画的に進めます。

⑭ 広域行政圏の活用

新たな行政ニーズが増加する中で、行政の簡素効率化を図りながら、これらに応じて行くためには、広域行政の対応も必要であるため、現在進めている3市共同プロジェクトの検討作業などの体制づくりをより一層進めます。

⑮ 補助金などの見直し

経済社会が大きく変動する中で、各種の補助金などについては、時代の変化に対応していく必要があるため、補助の目的、自主自立の可能性、行政効果などを考えた上で総合的に検討します。

⑯ 一課一事業の見直し

業務を執行する中で、現在の社会情勢や行政効果などの観点から、各課ごとに自らの業務の見直しを行い、庁内で組織する行政改革推進本部で改善、廃止などの検討を行います。

時代に即応した 組織・機構の 見直し

① 組織・機構の見直し

時代に即応した組織・機構づくりを行うため、総合調整機能と業務を横断的に処理する体制の充実、応援体制の確立など組織のスリム化を図るとともに、新規事業・業務などを考えながら組織・機構の整備を進めます。

② 調整機能の整備

行政に対するニーズの複雑化・多様化に伴い一部一課では処理できない業務や市が全庁的に取り組まなければならない業務が増加してきています。組織全体を肥大化させることなく、これらのニーズに的確に対応し、効率的、効果的

⑦ 市立幼稚園の見直し

市立幼稚園は、幼児の減少から3園とも定員割れが続き、かつ施設の老朽化が進んでいることから、私立幼稚園との関わりを十分考え、市立幼稚園の在り方を検討します。

⑧ 保育所の見直し

市内8カ所にある保育所は、いずれも大幅な定員割れを生じています。各地域のニーズに合った施



な事務事業を執行するための調整機能を整備します。

③ 外郭団体などへの職員派遣の見直し

他団体などへの職員派遣は、明確な目的意識を持ち、常に効果を検証し行う必要があることから、派遣要請を受けている団体ごとに目的、効果などから期間や終期の設定を検討します。

④ 地区防災担当員(仮称)の設置

災害時における高齢者などの弱者を避難、誘導するため、市職員を防災担当員として、地区ごとに配置することを検討します。

③ 職員の流動体制の確立

増加する行政に対するニーズに対応し、業務の繁閑に応じ「相互応援」で業務処理することにより組織の活性化と行政運営の円滑化を図るため、職員の臨時的な流動体制を確立します。

定員管理及び給与の適正化推進

① 職員定数の見直し

職員数は民間委託の推進、嘱託職員の活用などを図りながら平

成12年度の目標を50名とし、削減を図ります。なお、地方分権などによる業務量の増が見込まれる時点では、必要に応じて修正を行います。

② 給与制度の見直し

国家公務員の支給基準との比較を行うとともに、他市の状況を考えながら諸手当などを見直します。

効果的な行政運営と職員の能力開発などの推進

① 職員参加の目標による行政運営

ますます多様化する市民ニーズに対応し、職員各々がより効率的に業務を推進するためのマニュアルを作成し、体制づくりをします。

② 職員の能力開発などの推進

職員の政策形成能力や創造的能力を開発するため、現行の研修にとどまらず、民間企業との合同研修、テーマを定めた管理職研修、若手職員のグループ研修などを実施し職員の意識と能力の向上を図ります。



行政の情報化の推進などによる行政サービスの向上

① OOA基本計画の見直し

社会情勢の変化に対応し、地域の情報化を一層推進するため、行政の情報化を推進する必要がります。このため、業務の緊急度などを考えながら、内部情報の整備後、外部に向けての取り組みを行うこととしてOOA基本計画の見直しを検討します。

② 窓口サービスの向上

窓口サービスの向上と利便を二



会館等公共施設の設置及び管理運営

① 会館等公共施設の適正な管理運営

会館などの公共施設については、施設の在り方、配置箇所などを考える公共施設の整備方針に基づき、類似施設の統廃合を図りながら、効率的な管理運営を進めるとともに、民間委託可能なものの管理委託を進めます。

◆行政改革―行政全般の在り方を見直し、行政の制度運営などについて、今まで以上に簡素化・合理化を図るなど改め変えていくこと。
◆ニーズ―客が望む物、要求する物、必要な物。

▽問い合わせ

行政改革推進室
(☎855109)

●おめでとうございます。

秋の叙勲

平成7年秋の叙勲で、市内にお住まいのこの名の方が受章されましたので紹介します。

道立校の校長を12年間努め、学校教育に尽力



●勲四等瑞宝章

大和田 孝一 さん

登別東町 (75才)

道立校4校の校長を12年間にわたって歴任。80年7月から83年11月まで、生まれ故郷の伊達市で教育長を努め、伊達緑丘高校を誘致しました。

消防分団長を15年努め、防災活動に尽力



●勲六等瑞宝章

中村 正信 さん

鷺別町 (72才)

戦後間もない昭和23年から消防団員として38年間、消防使命の達成のために、火災現場をはじめ幾多の災害には常に第一線に立って活躍し、市民の生命と財産の保全に努めました。

各分野で活躍された方々が表彰されましたのでお知らせします。

技能者育成に尽力

●労働大臣表彰



宮武 克安 さん

幌別町 (58才)

昭和48年に設立された登別技能協会の初代会長。52年4月開校の登別職業訓練協会が運営する登別地方高等職業訓練校長に就任。技能者の人材育成に努めました。

地域スポーツ振興に尽力

●文部大臣表彰



渋木 敏雄 さん

若草町 (65才)

昭和40年代初めから市体育指導委員会の組織変革、各種事業の企画・立案、各種競技の指導などに携わり、地域スポーツ振興、普及に、胆振管内体育指導委員連絡協議会副会長、登別市体育指導委員会委員長として27年にわたって尽力されました。

業界発展、環境衛生に対する啓発活動に尽力

●全国社交業環境衛生同業者組合連合会表彰

有賀 恒夫 さん

鷺別町 (63才)

昭和60年から室蘭保健協会常任理事となり、食品衛生指導員として活動。62年からは道社交飲食環境同と道観光社交事業協会の登別西部支部長、登別西部飲食店組合長などの要職を努め、業界発展と環境衛生に対する啓発に努めました。

登別の水

— 水道の水について —



市民リポーター

鎌田 恵子

富士町・52歳

ちに提供してくれているなどの話を聞くとは高価な浄水器なんていないのではと思ってしまふ。それでは私たちの飲料水の水源になっている来馬川に実際に行ってみようということになり、係の方に案内してもらった。

生きている川

常盤町の奥の国有林はすでに広葉樹の葉が色づきを見せていた。

曲がりくねった山道を走り、幌別市街から20分くらいで来馬川の上流にたどり着いた。

決して大きな川ではないが、豊かな水量が川底の岩とぶつかって流れに強弱をつけている。私たちの飲料水となる水はその流れの中で波打ち、酸素を豊富に取り込んでいく。生きている川だ。

初秋のある日、市の水道部を訪ねた。係の方の話によると、登別の水は全道でも美味しい水の上位に入るといふ。美味しい水の条件とは、①ミネラル（カルシウムやマグネシウムなど水に溶けている人体に有益な鉱物性栄養素）②炭酸ガス③酸素などが豊富だということ。登別の水にはこれらが豊富に含まれているのだという。

おいしい登別の水

夕食の支度をしながら考えた。昨年に続いて今年の夏も猛暑のなか全国各地で水不足が起こっているとのニュースを聞いた。しかし、登別市では洪水や雨による崖崩れなどの水による災害はあっても、濁水が問題になった事は私の記憶ではここ数年ない。

毎日当たり前に、不自由なく使っている水が、どこからどのようにして私たちの家庭に届くのか。また、その安全性などについてはよく考えた事がなかった。

そこでリポートの題材として「登別の水」を取り上げてみることにした。



元来の天然の良水が更に味付けされることに、妙に感心した。

山の中を浄水場を目指して下る。道に沿って横を流れる来馬川の川岸と川底は地形を維持するほか、安全・防災などのために一部コンクリートで護岸されているが、生態系を考慮して川底のほとんどが自然のままに配慮されている。係の方の話ではヤマベも泳いでいるとか。

飲料水ができるまで



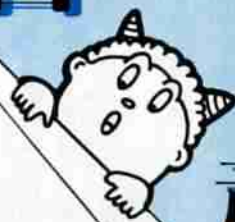
幌別浄水場は、以外なほど質素な建物で、だいぶん痛んできているなど私の目には映った。

敷地内には地域の町内会などによって植樹された庭木もあったが、なんとなく殺風景で、住宅地に近いのだから浄水場をもっと市民が身近に感じられるような環境にすれば良いと思った。例えば散策路を設けるとか、公園風にするともども連れて散歩などもできると思った。



▲沈殿池の説明を受ける鎌田リポーター

浄水場の中を見せてもらった。ここは市の職員の方が1名、嘱託の方が5名いて、2交替で生活用水を24時間作っている。正常にろ過されているか常に監視の目を光らせ、雨が降ると水の濁りを心配し、今の時期は落ち葉で取水口がふさがらないようにとり除かなければならず、作業も多いという。2階に上がると、足元に大きな沈殿池があって、薄暗い明かりに鈍く見えた。川の水が水道水になるまでの工程は意外に簡単であった。取水された水は一度浄水場2階



ミニ草履作り体験



郷土資料館での毎月第2土曜日の体験学習は毎回好評で、11月11日に行われたミニ草履作り体験は小学生や親子連れの約30人が参加し、乾燥させたトウモロコシの薄皮を使って昔ながらの手作業を楽しんでいました。普段は元気が余るほどのちびっ子も、同館ボランティアの指導のもと、真剣なまなざしで細かい作業に熱中。完成したかわいい草履は「家にかざるんだ」と大切に持ち帰りました。

力作集まる

～登別美術協会公募展～



登別美術協会の第17回公募展作品展が、11月9日から登別公民館で開催されました。会場には同協会会員24人によって審査された協会賞をはじめとする各受賞作品を含む油彩22点、水彩4点、日本画3点、陶芸7点が展示され、訪れた市民の目を楽しませていました。

私が見た登別

自然が豊かで
素晴らしいですね



ひきの
久野ひとみさん
(新生町)



「いつ登別にきましたか？」
主人の仕事の関係で、平成4年3月に神奈川県横浜市から来ました。
「登別を知っていましたか？」
温泉が有名なのは知っていました。25年前に旅行で北海道をまわったことがあります。そのとき登別温泉に泊まり、熊牧場にも行きました。その時は、まさか登別に住むことになるとは思いませんでしたね。
「登別に住んで見ての感想は？」

海岸線の美しさとか、山の素晴らしさとか自然が豊かだなと思います。
こちらに来て初めてスキーを始めました。近くにサンライバスキー場がありますので毎年利用しています。意外と地元の方が少ないんですね、もっと利用されるといいと思いますよ。
それから、地元には温泉があるので利用しないではないかと日帰りですが温泉にはよく行っています。「らぶ湯カード」や宿泊優待券などいただきますが、とても嬉しいです。
「登別に望むことは？」
現在、市民プールを利用してありますが、冬期間は使用できませんので、通年で使用できればいいなと思います。またオーケストラが呼べるような公会堂のようなものがあるといいですね。

老人大学・婦人大学合同大学祭

東 奔



▶演劇「桃太郎」の熱演には、会場から笑いと大きな拍手が送られました。



第8回登別市老人大学・婦人短期大学合同大学祭が11月22日、市民会館で開かれ、舞踊や歌、演劇や主張発表などさまざまな出し物で会場を沸かせていました。

合同学校祭は、大学と短大の学習委員らが自らの手で企画、運営に取り組んだもので、18もの出し物が次々とステージに登場し、長い期間をかけた準備や練習の成果を披露すると、会場を埋めた700人以上の観客からは大きな拍手が送られていました。



▲どの出し物も練習の成果を十分に発揮していました。

仲間たち



リラックスしてストレス解消

アミーサロンサークル(手編み)

代表 大畑啓子さん

(☎854710)



▲市民会館サークル展での作品展では、手作りとは思えないほどの出来ばえの作品がなりました。

アミーサロンサークルは、昭和61年に公民館講座の手編み講座に参加した皆さんが講座の期間だけで終わらせてしまおうの気持ちで集まってきました。

サークルの名称は編み物の「あみ」をもじってアミーサロンサークルにしたそうです。

現在、会員は30代から70代と幅広く、女性13名で主婦の方が多くということです。

毎月第1・第3月曜日の2回、市民会館での活動では先生の指導をマンツーマンで受けながら初心者から上級者まで和気あいあいとした中で創作活動をしています。

同サークル発足から講師として指導に当たっている代表の大畑さんは「手編みは肩がこると言う人もいますが、家でテレビを観ながらでも楽しめますし、仲間たちとワイワイやりながら楽しむのもまたいいものです。そして完成したときの喜びと満足感は素晴らしいものです。リラックスしてマイペースで手編みの楽しさと素晴らしさを一人でも多くの人に知ってもらいたいですね。会員も随時募集していますので、興味を持った人はまず見学でもかまわないですから遊びに来てください」と話してくれました。

わたしの趣味

粘土細工



くまがいたろう
熊谷太郎さん
(美園町)

熊谷さんの趣味は粘土細工です。絵を書いたり、物を作ったりすることが好きで、昔は廃材を使った木工細工を楽しんでいましたが、たまたま10年前にいい粘土と出会い遊び半分で始めたのがきっかけだそうです。題材も様々で、写真など資料を調べながら細かい部分まで丁寧に作りあげています。

「人物も、あまりまじめな顔だと面白くないから、とほけた顔のほうがいいかと思ひ、なるべくとほけた顔に作っているんですよ」と言う熊谷さん、どれも表情が豊かで、手作りの温かさが伝わってくる作品ばかりでした。

「粘土細工の魅力は、自分でいじっているうちに物ができあがるでしょ、想像というか自分のイメージが手先に伝わってそれが物になっていく、そこが面白いですね」と嬉しそうに話してくれました。

熊谷さんの作品は、毎年町内会の



▲郷土資料館に展示中の作品の1つ。躍動感が伝わってくる。

文化祭に出品されているそうです。今年の文化祭に出された作品は、昭和20年代から住む熊谷さんが中心に有志が集い、粘土細工で半世紀前の町内の様子を立体的に表現したもので、完成まで2カ月かかったという大作です。

「馬そりが道行く風景」や「鷺別川に架かる丸木橋を渡る人の姿」などを見事に再現しています。

「馬そりと言っても、ただ絵とか写真を見せても、どんなそりをどんなふうにするのか今の子供達は実感できないかも知れませんか」と熊谷さんは話していました。

この作品は昔の話を風化させずに子供たちに伝えようと取り組んだもので、現在郷土資料館に展示されています。

東京郊外の町田市で税理士事務所を営んでいる関係上、町田のライオンズクラブに入っています。そのクラブで市の施設を借りようと思ひ、200人程度の部屋の賃料を聞いたところ、半日で500円ということでした。

一方、十数年前に神戸市営の水族館に行ったところ、入館料が確か千200円で、当時、民間並の料金で高いなと思ひましたが、それでも結構お客さんは入っていました。

私は、町田市に対して怒りを感じ、神戸市には感心しました。なぜかというところ、町田市では、賃料だけでは施設の維持管理ができないため、毎年市の財政から補填していて、新しい文化施設の建設に予算を向けられないということなんです。

廉価な文化施設が、一カ所だけよりも、多小のお金を払えば、身近にいろいろな文化施設があ



▲11月19日に東京で行われた「東京登別げんきかい」総会・情報交換会のようす。

企業経営的な都市経営を

ゆけむりネットワーク 登別応援団



川西京也さん
(神奈川県大和市在住)
登別市登別東町出身。昭和44年
登別中学校卒業。税理士42歳
東京げんきかい幹事

る方が私は好ましいと思ひます。また、市外の人が入場するようになれば、外貨(市外の人たちのお金)も獲得できるようになります。

登別市も含めて行政が、ある程度企業会計的な感覚を取り入れて都市経営をしていただけではないかと思ひますが、いかがでしょうか。

登別郷土文化研究会 宮武 紳一

幸町・新栄町を訪ねて(2)

カシワの樹林と伝説の町



▲ポールンナイ「馬鹿になる岩」の伝説の場所
明治40年(1907年)生まれ、足利ハルさんのご案内

幸町と新栄町は、海岸や丘陵も近いがJRや国道が無ければ長大な地域で、札幌本道(現在の国道36号線)が海岸側に造成された後に、愛媛県出身者が岡志別川から富浦方向へ道路沿いに間口をもって入植しております。

移住の状況を岡志別川方向からみると山木ツイ・大西貞造・田中忠太郎・山下茂市・脇官治・浜田

菊治などの名が資料にみえます。

明治25年(1892年)幸町と新栄町の境に北海道炭鉄道(JR室蘭線)が設置されたとき、幸町・新栄町の未開地や山麓に多く繁っていたカシワ・ナラなどの原始の大木が、鉄道の枕木材として多く伐り出されました。

幸町3丁目付近で現在もカシワの疎林を見られるが、明治初期の資料では、登別地方の海岸付近のほとんどに海の潮風に耐えてカシワの樹が多く繁り成長していた情景が書き残されています。

開拓時代、前期のように幸・新栄町もオニ皮と言われるほど荒い肌のカシワの木が鬱蒼と茂り、開拓者は、強い枝を縦横に伸ばした

豪壮なカシワとの戦いを繰り返していた。当時の開拓者にとって、開拓とは自然に対する勇敢な挑戦で、畑を造成することが目的、千古の森も邪魔であった。大木を伐り倒し焼却し一刻も早く畑にしないと自分たちの死活に関わる状況下であり自然の森や木の活用を考えたり、森の中で生きていくものたちへの思いは全く無かった。

当地方にあったミスナラにしても、カシワと同様に「堅くて重い」のが特徴。切るにも割るにも運ぶのにも骨がおれる。木には多量的水分を含み、乾燥しないと燃えないので伐り払ったナラの大木がゴロゴロ転がって邪魔であった。

畳の上で生活する日本人は桐の簀笥・長持ち、スギ・ヒノキの家財や食卓も1日に幾度か動かす軽い物が要求されるお困りであったが、ヨーロッパでは家具材として高価な木材で、ウイスキー・ブドウ酒などの酒樽の良材、外国から盛んに輸入し、北海道からも輸出されたのは明治末である。

前述のように、北海道炭鉄道の枕木材として登別地方でも大量に伐採し搬出されて一寸した林業ブームで賑わったが、またカシワの樹皮からとれるタンニンには、特に軍隊用の皮革の鞣しや漁網の染色に需要が多く、皮をはがされ忽ち枯れてしまった。開拓と鉄道用枕

木材、鞣用で伐られた幸町・新栄町の原始のカシワの大木も姿は消え、潮風の害、札幌本道や炭鉄道の設置で入植地も分断され狭くなったので札内や蘭法華(富浦)へ移住する者が増加し、幸町・新栄町は一部を除いて、長い間放置された状態にあった。

また、幸町や鉄北の新栄町の一部で砂が採取されている。これは今から6千〜4千年前は氷河期も終わり、最も温かくなった海進の時期で、登別地方も海面が約4〜5m高く現在の平野地は殆ど海であったと考えるとよい。その後、海岸が退いて現状になるが鉄北の新栄町の低地部分も海であったことを示しております。

なお、前号で紹介したモユクンナイ(エゾタヌキ・入る・沢)の西側に、岸壁が高く広い崖がポールンナイ(洞穴・そこにある・沢)で「馬鹿になる岩」という伝説の場所です。むかし、この洞穴の前に大きな岩があり「この岩に触ると馬鹿になる」と恐れられていたが、和人の女が「こんな岩がなんだ」と言って馬鹿にし叩いたところ、キツネ憑きになり狂ってしまったというお話です。この伝説が89歳の足利ハルエさんも不思議がつていましたが、綺麗な湧き水とカミミンタルのような広場に曰くがありそうです。

きらり

北海道高校定時制・通信制生徒生活体験
発表大会優秀賞を受賞 全国大会出場

まつもと 暁子 さん
松本 暁子 さん
(新川町)



登別高校定時制2年生の松本暁子さんが平成7年度の生活体験発表大会に出場し、最優秀賞に次ぐ優秀賞を受賞しました。

大会では「日本語がくれた夢」と題して、2年前に中国残留孤児の祖母を頼りに家族で登別に渡った後、働きながら高校に通い、日本語の勉強を続けている様子をいきいきと語り、東京での全国大会のキップを手に入れました。

喜びの暁子さんにお話を聞きました。
―受賞の感想を聞かせてください。

先生から言われて、出てみようと思いましたが、とてもうれいす。

学校も職場の人もみんな協力してくれて、受賞したのもみんなのおかげです。

東京に行くのは初めてなので、本当によろしいです。

―日本語の勉強は

中国にいたときから日本語に興味があったので、話せるようになれたらいいなと思っていました。勉強はこつちに来てから始めましたが、とても難しいですね。

おばあちゃんにひらがなを覚えてもらいました。漢字の意味はほとんど変わらないけど読み方が違うから、今は漢字の勉強が中心です。「に」とか「を」の使い方も難しいですね。

―これからの目標は

日本語は難しいので、まだまだ自信はないけど、いつか通訳になって中国と登別の架け橋になりたいです。

高校では

ワープロク

ラブに所属

する、勉強

熱心で頑張

り屋の暁子

さん。

通訳とい

う夢に向か

って、これ

からも頑張

ってください

い。



▲「東京に行くのは楽しみです」と賞状を手に、笑顔の松本さん

フレッシュな



しょうじくみこ
庄司久美子 さん

新生町・25歳 登別自動車学校勤務

高校卒業後から勤務し、7年目の久美子さん。仕事にもすっかり慣れて、毎日、明るく元気いっぱい頑張っています。

―仕事について教えてください

事務の仕事で、受付や仮免などの書類作成をしています。職場は、男性の方が多いですが、わきあいあいとして、とても楽しいですね。

この仕事はいろいろな人と接することができるので、知り合いも増えて、友だちの輪が広がるのでいいですね。

―今、興味のあることは

特にはないですが、年1回は海外旅行に行きたいと思っています。これから冬は、スキーに行きたいですね。

―登別市に望むことは

住み慣れた街なので、ずっと地元に住みたいと思っています。新生町のあたりは最近とても開けてきたので、特急が停まるような駅があると、とても便利になっていいと思います。

―みなさんに交通安全のメッセージを

これから冬に向けて、道路も凍結するので、運転には気をつけていただきたいです。それと、忘年会シーズンになりますが、飲酒運転は絶対にやめてほしいですね。

―最後に一言

登別自動車学校は、先生もいい方ばかりで、わきあいあいと楽しく教習ができますので、自動車免許の取得はぜひ当校へおいでください。

まのらがる

▽問い合わせ 市民課 (☎81855)

市内の病院に

「耳鼻咽喉科」

が新設されました

市民のみなさんから長年にわたりに設立を強く要望されておりました「耳鼻咽喉科」がこのたび市内の三愛病院に新設されました。10月25日から診療を開始しておりますのでお知らせします。

▽診療日 毎週月・水・金曜日

▽時間 10時30分～16時

▽問い合わせ 三愛病院 (☎8111)

登別ミニサテライト局

TVh

(テレビ北海道)

放送開始

登別ミニサテライト局は、11月22日からTVh(テレビ北海道)の放送を開始しました。

登別ミニサテライト局から電波を受信している方は、テレビチャンネルを31に合わせるとTVhの番組を観ることができます。

第17回

登別市長杯争奪

新春囲碁大会

を開きます

登別棋道連盟主催

▽日時 平成8年1月21日(日) 11時～(受付10時)

▽場所 富士会館

▽参加費 会員500円、一般千円(当日徴収)

▽問い合わせ 登別棋道連盟 (☎1253)

水中カメラマン

稗田一俊氏

川を語る

▽日時 12月8日(金)

18時30分

▽場所 市民会館

▽内容 北海道の川の魅力と生き物の紹介(スライド)

▽入場料 500円

▽主催 自然愛好グループヨシキリの会

▽問い合わせ 伴野さん (☎5157)

公民館講座

手打ちそば講習会

▽日時 12月23日(土) 9時～13時

▽場所 郷土資料館

▽講師 山下利夫氏(手打ちそば研究会)

▽参加料 無料

▽定員 20名(申込順)

▽申し込み 12月11日(月)から

12月22日(金)までに社会教育課 (☎1100)

国民年金保険料の特別徴収を行います

国民年金保険料の現年度、過年度分の両方を受付いたします。納め忘れ、免除申請をしていた方は、この機会にご相談下さい。

▽日時 12月19日(火)、20日(水) 9時～17時

▽場所 市役所本庁1階、保険年金課国民年金係

▽問い合わせ 保険年全課 (☎1771)、室蘭社会保険事務所 (☎27101)

「平和のための

戦争写真展」

同展実行委員会では、多くの人

びとに、戦争について知り考えていただく機会になればとの思いから、「戦争写真展」を開催します。

▽開催期間 12月8日(金)～10日(日)

▽場所 登別「サティ」2階ギャラリー

▽入場料 無料(募金への協力をお願いします)

▽内容 室蘭空襲・艦砲射撃、中国人強制連行、沖繩に関する写真

その他戦争に関する資料の展示・ビデオ上映

▽問い合わせ 「平和のための戦争写真展」実行委員会 (☎01442677・片桐さん)

踏切事故ゼロをめざして

北海道運輸局よりの

踏切では、次のことに注意下さい

- ①一旦停止で安全確認
- ②ローで一氣に通り返ける
- ③反対線路も用心
- ④トリコになったら、遮断機を自動車などで押し出して脱出
- ⑤先づまりの時には、踏切に入らない
- ⑥踏切内で自動車が動けなくなったら、一刻も早く列車を止める。止める方法は、次の2つがあります

イ 非常ボタンを押す

ロ 自動車に備えてある非常信号用具などに点火し、列車に向かって合図する

となりまち ホットライン

室蘭市



ロボットサッカー

コンテストに参加を!

自作の模型ロボットで、発想スチロール製のボールを使い、サッカー競技を行うコンテストです。ぜひ、参加・観戦してください。(製作説明会や技術指導もありません)

クラス A:中学生(有線ロボット) B:中学生以上(無線ロボット) C:高校生以上(自立型ロボット)

▽開催日と会場 1月20日・21日 長崎屋中商店

1月22日・28日 マミロイデパート 桐屋

2月3日・4日 登別サティ

▽申込方法 12月11日まで、室蘭工業大学 備え付けの申込書を郵送または持参

▽問い合わせ 室蘭工業大学学生課 (〒4水元町27-1) ☎4181

伊達市



「NHKと自慢」が

伊達市で生中継されます

だて歴史の柱カルチャーセンター「あけぼの」がオープニングから1年がたちました。伊達市ではこれを記念して、「NHKのど自慢」の公開放送を行います。

当日は会場へ入場する申込みはすでに締め切っています。伊達市民の歌やゲストの歌などをテレビでお楽しみください。

▽放送日時 12月17日(日) 12時15分から13時まで(生放送)

▽放送チャンネル NHK総合テレビ、衛星第2テレビ、ラジオ第1放送

▽司会 宮川泰夫アナウンサー

▽ゲスト 五木ひろし、坂本冬美

▽問い合わせ カルチャーセンター (☎1422515)

うらびょうし



冬の野鳥と仲良くなるぞ

～登別野鳥教室～

教育委員会主催の登別野鳥教室が11月17日に市民会館で開かれ、「家庭で気軽にバードウォッチングをしよう」と親子連れなど約24人の参加者が、日本野鳥の会室蘭支部会員の皆さんのアドバイスを受けながら、牛乳パックやペットボトルを使ってバードテール（エサ台）作りに挑戦しました。

（表紙の写真）

冬鳥たちの来訪シーズン前に準備は万端。「あとは野鳥たちが庭先に訪れるのを待つだけ」と完成したバードテールを大切に持ち帰りまし

人のうごき

- 人口 57,409(+42)
 - 世帯 22,654(+30)
 - ()は前月比
- 平成7年10月末日現在

鳥名 オナガガモ (冬鳥)

観察時期 11月～3月



(文・写真提供 自然愛好グループヨシキリの会)
●問い合わせ 伊野さん ☎85-7515)

ボクはオナガガモ。冬鳥としてお気に入りの白鳥アララシにやっつて来たよ。ここには青首のマガモ君や茶髪のコガモ君らの派手めのカモが目立つんだよね。でもボクの灰褐色を基調にした技めのファッションセンスの方が、ずっといいカモね。声もダミ声の多いカモの中で、フリーフリーフリーと口笛のような軽やかさ。最も自慢できるのはね、長めの白い首と長くピンと上がった尾つぼだよ。

彼女へのプロポーズは自慢の首ととがった尾を魅力的に誇示することなんだ。このプロポーズ、ブルーでするので競争相手が多くて、ボク大変なんだ。



この広報紙は再生紙を使用しています。